

TXP Medical 株式会社

マレーシアの3次医療機関における救急医療DX実証事業

本事業の目的

マレーシアの救急医療において、デジタル変革を推進し、オペレーションの業務負荷を減らし、情報連携を効率化することが目的である。背景としては、オペレーションの電子化が進んでおらず、救急医療における情報連携の課題が残る。また、マレーシアでは救急医療サービスが多様で、各サービスの運営方法が異なり、情報連携の統一が難しい現状がある。

現地企業や政府との協力・連携

- Universiti Sains Malaysia
- Universiti Kebangsaan Malaysia
- University Malaysia Medical Centre
- Sultan Ahmad Shah Medical Centre

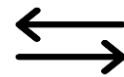
パイロット施設

IDS Medical System

医療機器の代理店

Higashi Medical Solutions

市場調査



TXP Medical

Praxis Design

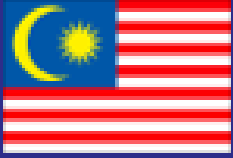
プロジェクト支援

現地の経済・社会課題

救急医療にまつわる現地の課題として、3次医療機関における現場の救急医やコメディカル（医師・歯科医師以外の医療従事者で、医師と協同で医療業務を担う人）にヒアリングを行ったところ、病院前診療の質の低さや、繁忙さ、オペレーションが精緻化されていないことにより、救急搬送患者の適切な情報を救急医療サービスから受け取ることが難しい、そのため搬送後に事前に予想していたより重症度の高い患者を診る機会が少なくない、また救急外来において電子カルテが導入されていないために記載業務の負荷が非常に大きいという意見が出された。一方、病院前診療を担う保健省やマレーシア市民防衛軍の医療スタッフへのヒアリングでは、救急医療サービスは患者の情報聴取や記録よりも、患者を速やかに救急病院へ搬送することを優先すべきとされているため、聴取に十分な時間を費やせないこと、また安定しない車内での紙への記載が困難、救急車の搭乗スタッフの人員不足などの声の問題点として聞かれた。このような状況を総合的に鑑みると、マレーシアにおいて近年医療全体のレベルは上がってきているが、救急医療において病院前診療と病院診療の間に患者情報を適切に受け渡しする仕組みが双方の面から出来上がっていないことが考えられる。

TXP Medical 株式会社

マレーシアの3次医療機関における救急医療DX実証事業

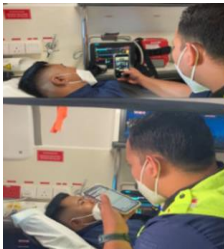


実証期間

2022年8月～2024年1月

実証した内容

- ・本事業では、4大学病院とその傘下にあるMedical Emergency Coordinating Center（救急隊）との協力の下、弊社のソリューションであるNSER mobile、NEXT Stage ER、TXP Self-Assessment Systemを活用し、救急外来と救急車のオペレーションのデジタル化を推進した。
- ・NSER mobileは救急隊が救急現場で取得した患者情報を電子的に入力・病院へ連携するスマートフォンアプリ、NEXT Stage ERは救急外来での患者情報記録・情報連携を可能にする病院向けシステム、TXP Self-Assessment Systemは患者が入力する問診システムである。



事業の成果/今後の予定

NSER mobileが高い使用率と満足度を示し、業務時間の削減に成功したことで、本ソリューションに集中して、今後のさらなるリソース投入を検討中のところである。

しかしながら、大学病院の予算化に難航し、有償導入ができなかった。その原因として、適切なプライシングができず、経営陣の積極的な巻き込みが不足していたことが考えられる。また、インターネット環境の脆弱性も課題で、同様サービスを提供する競合ベンダーも増加している。

今後の方針として、医療機関との交渉を継続し、民間救急サービスにもアプローチする。インターネット環境に配慮したプログラムの開発を行い、システムの遅延を解消する方針としている。

現地パートナーIDS Medと協力してUniversiti Sultan Zainal AbidinへのNSER mobile入札案件への参加が決定している。MECCだけでなく、医療機関と民間救急サービスへの積極的なアプローチを継続する一方で、ICU向け部門システムの展開も検討し、ネットワークを活用して展開を推進する。